

教育推進部教育指導課

令和6年度学校評価の報告について

○学校評価は、「学校運営の改善を目指し、教育水準の向上を図る」ことを目的とし、各学校園が、自校(園)の教育活動その他の学校運営の状況について、以下のとおり評価を行い、その結果に基づき必要な措置を講ずることが、平成19年改正された学校教育法、同法施行規則に示されている。

- ①教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること
- ②学校の自己評価について保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価」）を行うとともにその結果を公表するよう努めること
- ③自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること

○文京区教育委員会では、法改正に基づき平成20年度より学校評価を実施している。
平成21年4月に「文京区立学校関係者評価委員会設置要綱」を定め、「学校関係者評価委員会」を組織して、学校関係者評価を実施することとした。
平成22年度には、各学校からの学校評価報告とともに、区全体の状況を把握するための参考として、学校関係者評価に区共通項目を策定した。

○ここに、令和6年度学校評価の集計結果を示すとともに、学校支援の具体的な手立てを講じて、教育施策の実行状況や進展状況を把握する資料とする。

別紙1 令和6年度学校関係者評価共通項目（集計結果）

(園)

幼稚園		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	3.92	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	3.91	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	10	0	0	0	3.86	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	10	0	0	0	3.87	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	10	0	0	0	3.89	A

(校)

小学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	20	0	0	0	3.92	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	19	1	0	0	3.84	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	19	1	0	0	3.80	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	19	1	0	0	3.80	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	20	0	0	0	3.80	A

(校)

中学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	3.84	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	3.82	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	10	0	0	0	3.79	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	10	0	0	0	3.58	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	9	1	0	0	3.73	A

※各関係者評価委員が4段階で評価した学校(園)の平均値を下記の基準をもとにABCDの4段階で評定したもの。
(A: 4～3.4以上、B: 3.4未満～2.6以上、C: 2.6未満～1.8以上、D: 1.8未満)

別紙2 令和6年度 保護者アンケート(区共通項目)集計結果

	質問項目	幼稚園				
		とてもあてはまる(%)	まああてはまる(%)	あまりあてはまらない(%)	まったくあてはまらない(%)	わからない・無回答(%)
1	本校(園)の教育活動に満足している。	74.6%	22.5%	1.4%	0.4%	1.2%
2	本校(園)の子どもたちは、学校での生活が楽しいと感じている。	78.0%	20.5%	0.5%	0.3%	0.6%
3	本校(園)では、一人一人が大切にされ、子どもの人権に配慮した教育が行われている。	77.7%	18.6%	1.3%	0.3%	2.0%
4	本校(園)は、特色ある校(園)づくりに積極的に取り組んでいる。	77.9%	19.7%	1.5%	0.0%	0.8%
5	本校の授業は、子どもにとって分かりやすい内容である。【小・中学校】					
	本園は、一人一人の幼児理解に努め、適切な保育に努めている。【幼稚園】	73.1%	23.2%	1.3%	0.2%	2.3%
6	本校は、日頃よりいじめの未然防止に適切に取り組むとともに、学校生活で起きたいじめ等の問題(本園は、園の生活で起きた子ども同士のトラブル)に対して、素早く丁寧に対応している。	67.1%	25.4%	1.7%	0.6%	5.3%
7	本校(園)では、子どもの安全管理や事故防止に努めている。	71.7%	25.4%	1.6%	0.3%	0.9%
8	本校(園)は、保護者や地域に対し、積極的に情報を発信している。	66.3%	28.9%	2.1%	0.3%	2.5%
9	本校(園)は、区や学校の方針等に対する保護者の意見をよく聞き、保護者と協力して教育を進めようとしている。	65.7%	26.3%	2.3%	0.8%	4.9%
10	来校時や電話での本校(園)の教職員のあいさつや対応は、適切である。	83.1%	15.1%	0.8%	0.5%	0.5%

小学校				
とてもあてはまる(%)	まああてはまる(%)	あまりあてはまらない(%)	まったくあてはまらない(%)	わからない・無回答(%)
40.0%	53.5%	4.0%	0.8%	1.7%
42.5%	49.4%	4.9%	0.8%	2.3%
36.8%	51.5%	5.1%	0.9%	5.6%
41.1%	47.0%	5.0%	0.6%	6.4%
37.3%	52.0%	3.2%	0.6%	6.9%
26.7%	37.1%	5.4%	1.4%	29.5%
39.4%	48.2%	3.1%	0.6%	8.7%
39.7%	50.2%	5.3%	0.9%	3.9%
32.5%	47.9%	5.5%	1.3%	12.8%
64.0%	32.3%	1.6%	0.2%	1.9%

中学校				
とてもあてはまる(%)	まああてはまる(%)	あまりあてはまらない(%)	まったくあてはまらない(%)	わからない・無回答(%)
34.0%	55.6%	6.4%	0.9%	3.0%
37.3%	50.8%	5.2%	1.1%	5.6%
34.4%	48.5%	7.1%	1.6%	8.4%
29.0%	48.4%	11.0%	1.3%	10.3%
21.8%	51.5%	11.0%	1.2%	14.6%
25.6%	32.9%	6.4%	1.4%	33.7%
32.8%	47.8%	4.1%	0.7%	14.7%
39.9%	48.3%	5.7%	0.7%	5.3%
32.8%	46.2%	7.0%	1.3%	12.7%
64.9%	31.5%	1.9%	0.4%	1.3%

※ 数値は、各学校の平均値

幼稚園	家庭と地域	- 情報発信についての評価が比較的低いという結果があるが、運動会や音楽会など行事のおたよりが充実していると感じる。保護者がどんな情報を求めているのか、ニーズがくみ取れていない層があるのではないかと感じる。保護者がどういった情報が知りたいのかリサーチするとよい。 - 小学校との交流があり、小学校入学の不安が軽減され、あこがれや希望をもつことができると考える。打ち合わせ等、時間の調整を要するが、双方にとって良い体験なので継続していきたい。
	安全・安心	- 保護者評価から、預かり保育の満足度の高さが伺える。働く保護者のニーズがあるということ、やはり3歳児保育が望まれているのだと感じる。 - 近隣の工事(新築工事、解体工事)にも園が配慮していると知った。幼児が安全に通えるようにしており、安心である。
	教職員連携	- 地域にも外国籍の方が増えている。小学校は幼稚園よりも外国籍の児童が多いので、様々なノウハウをお持ちだと思う。よいやり方を学ぶことができるのではないかと感じる。お互いを理解するために、親同士で関わる行事などを活用して欲しい。親子の縦の関係だけでなく、親子同士が横の関係でつながるとよい。 - 園内研究で、乳児と幼児が日常的に自然な形で関わるように環境を整えたり保育者同士が連携を取ったりしていることが分かった。大きい子が小さい子(弱い立場)を守っていくよさであると思う。 “自然”は人が作れないものである。園庭や地域の環境を生かして、“自然”との関わりを次年度も深めて欲しい。
小学校	学力向上	- 達成状況から、確かな学力の育成という目標へ大きく前進していると評価できる。タブレット端末の使い方について課題として挙がっているが、タブレットを上手に使えることは手段であり目標ではないので、この部分の評価は一段高くしても良かったのではないだろうか。 「分からないことが分かる楽しさと喜び」については、「説明や指示が分かる」ことについて児童らの意識調査から改善したことを推察している。一方、前項目の自己評価には、「家庭学習というよりは塾の宿題に追われている」とあり、学習塾による効果も否定できない。「分からないことが分かる楽しさと喜び」という短期経営目標は大切につつも、学習者である児童にとって適度な負荷とする視点も忘れずに進めて欲しい。
	豊かな心・人間性・感性の育成	「学校生活で起きたいじめ等の問題に対して、素早く丁寧に対応している。」の項目で、「わからない」と回答した保護者は減少した。教職員は誠実に子供の指導に精励しているもので、より効果的な啓発・広報活動を進めてほしい。 - いのちと心の授業やふれあい月間など、生命に対して意識を高める取り組みがなされている。いじめが発生した場合にも、迅速に保護者や専門機関と連携し、対応にあたるなど、子供が安心できる環境づくりに注力している。 - 昨年度に続き、Hyper-QU(学級満足度調査)と言う取り組みは良い事ではあるが、実施結果をどのように反映させたか、またどのような成果がでたのか具体的にわかるとよいです。この取り組みを知らない保護者が多いと思われるので学校だより等でこの取り組みについて、周知するとよいと思います。また長期休校している子どもへの対応は評価します。教員が積極的に児童のよさを認めて、児童相互のよさを認め合う姿勢は評価します。
	家庭・地域との連携	9月に事前予告なく学校訪問した際に、学運協で開いていた様子とは異なり、かなり落ち着いた状況で授業展開していた。教職員をはじめとして、関係者の協力を得る中で、改善したと推察するが、その努力を評価したい。また、専科教員が急速学級担任に入るなど、学校の状況改善に向けて快くその対応を引き受けた教員もいると聞く。こうした一人一人の教員の動きを評価したい。またさらに、学校は原則公開であるが、気持ちよく予告なしの訪問を受け入れた校長についても評価したい。このほか、比較的課題のある児童のケースが会議では取り上げられるが、訪問時に廊下ですれ違う児童らが、気持ちよく挨拶する姿もある。こうしたよき文化は今後も大切にされたい。 - 地域の方々など、多くのゲストを招いて授業を行っている事は、こどもたちにとって直接現場の話を聞けるので、これからも多くの人を呼んだり地域のいろいろな場所に出向いて授業をし、学習した事によりこどもたちが今より更に地域に関心を持ち、将来に渡り地域に根付くこどもたちを育てて欲しいと思います。あと今年度は地域のお祭りに教職員も参加してお祭りを盛り上げて頂いた事には感謝します。
中学校	学力向上	- 英語の水曜教室では英検合格を目指して放課後学習している。I～Ⅲ期で延べ70名超の生徒が参加しており、生徒の意欲の高さが伺える。English Day Campも開催している。すべて英語で話す体験は普通の授業ではできない。そういう機会を持つということは魅力的である。 - 年3回の全教員参加の研究授業の実施や、ベテランと若手3人が1組になつての授業観察、アドバイスを送るなどの研修が高評価を得ている。
	信頼される学校	- 中学生になると、地域や町会との結びつきが薄れてきて、地域の方々から学校や生徒の様子がわからないという声が多々聞かれる。今まで以上にふれあう機会をつくり、内容を工夫していくことも必要かもしれない。 - 地域貢献や社会貢献の意識を高める活動にも積極的で、地域行事の「ハロウィンボランティア」や地域清掃にも多くの生徒が参加していました。9割以上の保護者が「学校の教育活動に満足している」と回答していることから、今年度も保護者、地域からの信頼が得られていると考えます。 - 課題としては、素晴らしい取り組みであるにもかかわらず、それらの情報発信に課題があると思われる。ホームページなどの充実が望まれる。
	豊かな心・人間性・感性の育成	- 生徒会の主導で、校則の改正(服装の規定の緩和)に取り組んだ。今のところ服装の乱れなどはなく、よく遵守されているとのこと。 - 生徒を対象にしたアンケートを年に5回実施して、いじめや体罰等に関わる情報を把握しているとともに、学校生活における生徒の満足感や意欲、学級集団の状態等を測定するためのHyper-QUの研修も2回実施するなどの取り組みは、認め合い、支え合い、高め合うことのできる望ましい集団づくりをする上で効果的な取り組みであると評価できる。 - 生徒が礼儀やマナーを身に付けている様子、また、決まりを守った生活をしていることが、それぞれA評価のポイント上昇からも確認できます。また「いじめのない友人関係を築いている」「相談できる人がいる」に対する肯定的回答はいずれも80%以上で、前年度から良い環境が維持されています。一方で、20%程度は該当しない(相談できる人がいない)生徒がいることが示唆されます。この点について、次年度は保護者の認識についても(生徒と同じ質問に対して)ぜひ回答を得たいところです。